



「小平市ふれあい下水道館」での講演は満員だった。近くでお疲れ様でしたと何人かで一杯やっ
てから、二人で国分寺を目指して歩き始めた。来た
ときは電車で二駅 途中に「恋ヶ窪」があるが、
まあ そんなに遠くはないだろうとふらふらと行
ったが、道は変にV字型に分かれていて

「さあ どちらへ行くの?」と聞いてくる。こ
こいらから間違えたんだな。行けども行けども、
どうもスッキリしないまま踏み切りも何回か渡
り、曲がりた方へ道はなく、人気の希薄な町を
歩きながら「あのさー、このまま気がついたら新
宿なんてことにならないともかぎらないよな

ー。」「まあ あわてることもないからいいじゃない。」「GPS持ってくれば後から見て楽しめ
たのになー。」と歩きに歩いてようやく国分寺の駅へとたどり着いた。たどり着いたのではなく、
その前を素通りして安飲み屋にたどり着いたと言ったほうが正解だろう。

なんだか、軽く気の置けない話をして久しぶりに肩もこらずに楽しく笑ってその日は終わっ
た。しかしそんな時間の最中でも、海の向こうでは大きな地震でたくさんの方が埋もれたまま
になり、水だ、食料だと叫んでいるのだな。二人でいつも言っているのは「バン格拉で、
現場か、移動中で無かったら、地震がきたら絶対助からないよな。」と言うこと。耐震性の
かけらもない大きな建物が当たり前の世界は、時々、何もなしのにビルが自然崩壊して、た
くさんの人たちが亡くなる。「地震が来るなら外にいるときにしてほしいもんだ。」と良く言う。

そんなだから、どうやって生き残るか、生き残ってしまったらどう行動すればいいのかとた
まに考える。考えるたつて交通事故ってこともあるしこれは現場に出ると毎日目にするわけだ
から確率はよっぽど高い、とまあ確かなことは何も無くないし考えが見つかることはない。良く
考えてみると、どうしても生き残らなければいけなこともないから、運を天に任すしかない
だろう。あとは、大使館に何とか連絡をつけて、生きてるか死んでるか言えればいけな。

ついでに新年早々夢の中であと45分で死ぬとわかって、さてどうしようと考えたが、とり
あえず、後から二階からおろすのも大変だから一階に移動して、話が出来ればわずかの時間に戻
すべき借金のことを言ってから、さよならの一つも言っておかぬきゃあいけなな、おっと
そろそろ身動きできなくなるな、まあ、ショーがないかなどという夢だった。

まあ、そんな年の初めです。今年もぎりぎりの毎日の中から、バン格拉への往復が続きます。
そんな中でふれあう人たちの一つ一つの時間を大切にしていきたいと思っています。

ブログはデンマークから英国へ移動しました。 <http://blog.goo.ne.jp/gnomesjp/>

<http://www.interq.or.jp/japan/gnomes/gnomes1>

TELFAX 03 5600 0195 高村 哲 GnomesJpn@aol.com